

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成30年4月

福井県知事 西川 一 誠

福井県教育長 東 村 健 治

30年度の施策

1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略

◇幸福日本一福井へ 移住・定住戦略

○地場産業の宝庫・福井でチャレンジの夢ひらく

- ・普通科高校1年生の企業訪問について、文系・理系・女性などのコースを増やすとともに、企業を紹介するパンフレットを家庭に配付し、福井の職業や企業の魅力を伝え、大学卒業後に福井で働く意識を高めます。

2 福井から人材育成

◇「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】

○「ふるさと教育」の充実

- ・全中学・高校の授業等で「ふるさと福井の先人100人」を活用し、先人の生き方や考え方について発表や討論を行う学習を進め、福井や自らの将来を考える機会を増やします。

- ・福井ゆかりの百人一首などを取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート」に童謡や唱歌を追加して内容を充実し、小・中学生が古典に親しむ機会を増やします。
- ・白川静博士の書籍を活用して白川文字学を学ぶ研修を行い、学校での漢字教育をリードする漢字指導者を増やします。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
漢字指導者数 (累計)	63 人 (200 人)	63 人 (263 人)	22 人 (285 人)	15 人 (300 人)

- ・「間違いやすい漢字」ワークシートの作成や「白川文字学こども漢字教室」の開催により、白川文字学を活かした漢字教育を推進します。
- ・書道団体と連携し、学校に書写・書道指導員を派遣するとともに、筆使いの基本など、全小・中学校教員対象の実技講習会を実施します。
- ・本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による授業を引き続き全ての県立高校で実施します。
- ・教育博物館の展示施設を充実し、小・中学校の校外学習などでの利用を促進するとともに、幕末・明治の教育に関する企画展を開催し、全国トップクラスの福井の教育を県民や全国に発信します。

チャレンジ施策

○外国語教育の推進

- ・本年度から開始される英語教科化の先行実施において、県が作成した指導案や教材、評価テストをもとに全ての小学校で授業改善を進めるとともに、NHK語学番組を活用した小学校教員対象の研修会を実施します。
- ・平成30年度県立高等学校入学者選抜の結果を分析し、中学・高校の校長会や有識者の意見を聞いた上で英検加点制度の検討を行うとともに、試行テストを実施し、話す力を測るスピーキングテストの導入に向けた検討を行います。

- ・英語のコミュニケーション活動を充実させた授業を進めるとともに、中学校において培った英語力をさらに向上させるため、NHK語学番組の講師による高校生向け講座を行います。
- ・日本での授業経験が豊かなALTを中心にALT同士で指導方法を共有する場を設けるとともに、日本語講座を実施し、ALTの指導力や日本語力を高めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
英検 3 級相当以上を取得した中学生	42%	47%	62.8%	63.0%
英検準 2 級相当以上を取得した高校生	42%	45%	52.4%	52.5%

※国が定める中学・高校の目標（29 年度末）：50%

- ・中国語教育を進めるため、大学教授などによる高校生向け講座や、中国人留学生との交流を行います。

◇「福井型 18 年教育」の進化【部局連携】

○幼児教育の充実

- ・市町幼児教育アドバイザーや園内リーダーを養成するとともに、幼児教育支援センターによる巡回訪問を増やします。

○小・中学生の学力・体力向上

- ・効果を上げている学校の特長ある指導方法や教材を収集し全小・中学校に提供するとともに、指導主事による継続的な学校訪問を実施し、指導方法等の確実な定着・普及を図ります。
- ・小学校高学年において理科の教科担任制を実施するとともに、英語の習熟度別授業の実施校を増やします。
- ・小学校低学年の体育授業に補助指導者を派遣し、楽しく体を動かす習慣を身につけるとともに、小・中学校の体育授業に県内のトップアスリートを派遣し、ボールの投げ方や走り方を指導するなど、児童・生徒のさらなる体力向上を図ります。

○「学力・体力」に加え社会参加を促進

- ・児童・生徒が地域住民や企業とともに、まちづくりへの参画や農業体験など地域の課題等の改善を企画・提案する体験学習を全小・中学校に拡大します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
提案型の体験学習を実施する小・中学校 (累計)	—	28 校	114 校 (142 校)	115 校 (257 校) (全小・中学校)

- ・主権者教育の指導事例集を活用し、高校の教員の研修を行うとともに、模擬選挙や国・地域の課題を話し合うなどの実践的な学習を行い、生徒に社会の一員としての意識を育てます。

○高校生の学力向上

- ・進学への意欲を高めるため、高校入学時から保護者を含めた研修を行うとともに、高校1年生から生徒の志望にあわせた特別講座等を実施します。
- ・大学進学サポートセンターにおいて、退職教員による学習会の内容の向上や交流会の開催、推薦入試等の学習支援を行い、既卒生に対する進学支援を強化します。

○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム

- ・企業が求める資格等の取得を支援するとともに、職業系高校の生徒の学習成果を福井フューチャーマイスターとして認定し、企業の即戦力となる人材を育成します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
福井フューチャーマイスター認定者割合	—	76.9%	85.0%	86.0%

○教員の授業力・指導力の向上

- 各高校において5教科の授業力向上リーダーを校務分掌に位置づけ、授業公開や校内の教科研究会において教員の指導力を高めるとともに、生徒の成績分析を行い、弱点を補強するなどして、学力向上を図ります。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
授業力向上リーダー による授業研究	—	—	—	100 回/年

- 到達度確認テストの問題作成において、若手・中堅教員を育成するとともに指導主事が分析結果をもとに学校訪問を行い、授業力向上リーダーとともに授業公開や教材の活用法などによる授業改善を行います。
- プロジェクターなどの I C T 機器を高校 1 3 校に整備し、2 学期から授業で活用するとともに、教員の自主研究活動への支援などを行い、プロジェクター用教材の作成・収集・共有を進め、授業改善を行います。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
教材作成に取り組むグループ	—	—	—	15 グループ/年

- 学習指導、進学指導に定評のある退職教員を配置し、授業スキルや添削指導、進学指導のノウハウについて教員に指導を行います。

○学校業務の効率化

- 部活動休養日の設定などの取組みを徹底させるとともに、学校、教員が担う業務の明確化や適正化など業務改善の方針を作成します。
- 専門的な技術指導や引率ができる部活動指導員を全中学校と高校 9 校に配置するとともに、事務作業を代行する学校運営支援員を全小・中学校に配置し、負担の軽減を図ります。
- 管理職が業務の進め方について指導力を発揮し、長時間勤務を縮減するとともに、県立学校に校務支援システムを導入し、業務の効率化を図ります。

○児童・生徒はみんな笑顔に

- ・ いじめ・不登校を未然に防止するため、「通うのが楽しい学級づくり（学級運営の手引き）」、「福井県不登校対策指針」を改訂するとともに、全小・中学校において、児童・生徒の意識調査を年３回行い、授業や行事の改善につなげていきます。
- ・ スクールカウンセラー等の増員、養護教諭や特別支援教育コーディネーター対象の研修を行い、各学校において子どもたちが気軽に相談できる教育相談体制の充実を図り、生徒の特性に配慮した教育を進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (見込)	30 年度 (目標)
小・中学校の不登校者数	629 人/年	666 人/年	709 人/年	680 人/年

- ・ 特別支援学校に学校ジョブコーチを配置し、就労応援サポーター企業や実習機会を拡大することにより、生徒の一般就労を進めます。また、技能検定を実施し、生徒の技術や働く意欲を培うとともに、生徒一人ひとりの特性に合わせた就労支援を行います。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
特別支援学校生徒の一般就労率	32.9%	40.5%	31.5%	35.0%

- ・ 高校において通級による指導を開始し、コミュニケーション面や社会性など、発達障害のある生徒の障害に応じた指導・支援を進めます。
- ・ 共生社会条例の施行を踏まえ、特別支援学校と小・中・高校のスポーツや文化を通じた学校間交流をさらに進め、障害についての理解を深めます。

◇学校の再編・統合

○県立高校の次なる再編に道筋

- ・丹南地区では統合再編する高校ごとに準備委員会を設置し、平成32年度（2020年度）に向けた再編の準備を進めます。二州地区では敦賀高校において新学科設置の準備を進めます。

○県立学校の長寿命化

- ・時代に即した学習環境を整備するため、県立学校の大規模改修を進めます。

○県立学校の特色強化

- ・普通科高校の特色を伸ばしていくため、地域や保護者を巻き込んだ学校活動の検討を進めます。
- ・若狭高校海洋学科の海洋観測の実習、若狭湾全域での体験航海などに活用するため新たに建造する「雲龍丸」の仕様および活用方法を検討します。

3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献

◇県民の健康サポート・システム【部局連携】

○子どもの目と歯・生活の健康

- ・全小・中学校において、目を休めたり、目の動きをスムーズにする運動を行う時間を設けるとともに、家庭においても目によい生活習慣を定着させ、近視予防につなげます。
- ・歯科医師会と協力し、全小学校において「正しい歯みがき教室」と、全ての1、4年生を対象にした歯の二次健診を実施するとともに、家庭と協力して正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進します。

目 標	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (実績)	30年度 (目標)
むし歯のない小学生	68.4%	70.0%	72.2%	73.6%

- ・インターネットの適正利用について、引き続き全小・中学校において児童・生徒が自主的にルールを作成するとともに、高校においては生徒会が中心となって話し合いを進め、「ふくい高校生スマートサミット」を開催します。
- ・子どもに正しい生活習慣、読書やお手伝いの習慣を身につけさせるため、PTAと連携した研修を行うなど、家庭の教育力を高めます。

4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】

○日本でいちばんおいしい学校給食

- ・本県の特産品や地場産食材を使用した給食を全小・中学校で年3回提供し、食に関する学習を行うとともに、生産者との交流による農業体験等を通して食育を推進し、子どもたちの福井の食文化への理解や地域への愛着を深めます。
- ・県漁連やJA等と協力し、安価な地魚などの地場産食材を活用したおいしい学校給食を提供します。
- ・学校給食調理コンテストを開催し、児童・生徒の食への関心を高めるとともに、学校給食甲子園等の全国大会において上位入賞を目指すことにより、本県給食のレベルアップにつなげます。

5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○観光人材の育成

- ・商業系高校の観光の授業において、旅行業者などの外部専門家による授業や地域の観光資源を発見するフィールドワークを行い、高校生の視点から地域活性化に貢献する観光プランを発信します。

6 国体・障スポの成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇県民総参加の福井国体・障スポ【部局連携】 **チャレンジ施策**

○競技力を高め「優勝」の実現

- ・福井国体で総合優勝するため、スポーツケアトレーナーの帯同を増やし、選手のけが防止やコンディションの維持・管理を強化するとともに、スーパーアドバイザーの帯同による戦略分析や観客と一体となった応援を行い、勝利につなげます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
国体総合成績	26 位	18 位	7 位	優勝

◇「スポーツ福井」の実現

○競技施設の利活用促進 **チャレンジ施策**

- ・男子 1 0 0 m 日本人初 9 秒台の大記録が誕生した県営陸上競技場（9.98 スタジアム）を陸上競技の聖地として全国へ P R し、全国高校総体等の各種全国大会や大学のスポーツ合宿等を誘致するとともに、県内のスポーツ活動や選手強化の拠点等として利活用を進めます。

○子どもから大人まで気軽にスポーツ

- ・国体デモンストレーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
イベント開催数	25 回/年	29 回/年	32 回/年	34 回/年

○「福井県スポーツ推進計画」の見直し **チャレンジ施策**

- ・福井県スポーツ推進計画について、これまでの進捗状況を評価し、「国体・障スポ」後のスポーツ振興に向け見直しを行います。

◇福井の文化をもっと身近に

○文学館の新展開

- ・「幕末明治福井150年博」や「国体・障スポ」関連の企画展、全国初の「おしどり文学館協定」に基づく荒川区との相互協力による合同企画展等を開催します。**チャレンジ施策**
- ・「ふくい文学ゼミ」や、高校の文芸部などが交流する「文学フェスタ」を開催し、若い世代の文学者の創作活動を支援します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
文学ゼミ修了者数 (累計)	28 人	20 人 (48 人)	24 人 (72 人)	18 人 (90 人)

○子どもの文化・芸術活動

- ・吹奏楽推進校に大型楽器の整備を支援し、中・高連携による合同練習・演奏会を開催するとともに、全中学・高校の吹奏楽部に外部指導者を派遣し、吹奏楽の演奏技術や指導技術の向上を図ります。
- ・一流の演奏家による指導や合同練習・演奏会の機会を拡充し、小・中・高校が連携しながら弦楽奏者の育成を目指します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
弦楽クラブ等参加者数	155 人/年	171 人/年	219 人/年	220 人/年

- ・小・中・高校で越前和紙を活用した日本画の授業を行うとともに、東京藝術大学との連携を進め、出前授業や美術部員の研修会を実施する高校の研究推進校を増やします。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
研究推進校（美術）	35 校/年	37 校/年	39 校/年	41 校/年

○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ

- ・福井の先人の業績や生き方などをわかりやすく展示するとともに、体験メニューを工夫し、来場者の拡大を図ります。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
来場者数	54,291 人/年	55,187 人/年	57,650 人/年	60,000 人/年

○県立図書館の充実

- ・著名人を朗読アドバイザーに委嘱し、朗読講座を開催するなど、県民の読書への興味関心を高めていきます。
- ・小・中・高校に図書館の利用を働きかけるとともに、市町公共図書館と連携して、子どもの読書活動を推進します。

◇福井が誇る歴史遺産の発信【部局連携】

○国宝・重文の指定迅速化

- ・建造物や工芸品、民俗などの文化財の指定を進め、観光やまちづくりへの活用につなげます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
国宝・重要文化財・ 県指定文化財の新規 指定件数 (累計)	11 件	14 件 (25 件)	13 件 (38 件)	12 件 (50 件)

- ・丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建物の構造や文献などの総合的な調査を支援します。